型をつける

市民参加のかたち：ワークショップ・リサーチ対象

千葉市中央区にある栄町の街を舞台に、そこに暮らす人々の記憶を残すインスタレーションとパフォーマンスを構想している。
栄町は、個性的な個人商店や古い建物が残りつつも、少しずつ姿を消している場所であり、その風景と個人の歴史を「巣」として、一時的に表の世界に運び出し、街の人たちと共有したい。
半紙やボンド等を用いたはりこの技法で、お店の内部の型を取り、それを公園に集めて再構成するプロセスを通じて、その場所に触れることで感じられる「物の記憶」を外に持ち出したい。
このプロジェクトは、栄町のお店を訪れ、店主の許可を得て内部の型を半紙で取り、それを公園に移動し再構成する形で進行する。
型取りは一つのアイテムから始め、許可を得ながら範囲を広げ、最終的にはお店の内部全体を覆うことを目指す。構造は細い鉄線を枠組みとし、半紙とボンドを重ねて半透明な膜として形成。台車は「動く巣」として機能し、街を旅しながら型を再構成し、私を覆う空間として大きくなっていく。最終的に、公園には栄町の複数のお店の記憶が内包された空間が誕生する。

水口 理琉

2000年、静岡生まれ。2023年3月東京藝術大学美術学部絵画科油画科卒業。2023年から東京藝術大学美術研究科壁画第一研究室に在学中。
即興的にその場にあるものを使って身の回りを囲う「巣づくり」を通じて、場と人が新たな関係を築くことを目的に制作をしている。
主な展示歴：「織り入って、」タイレジデンスプロジェクト@baan Noorg arts and collectives（2025）「NESTII」オーストラリアレジデンスプロジェクト@Tanks arts centre（2024）、「INVOLVE!II」千住人情芸術祭　1DAYパフォーマンス表現街@東京北千住（2024）「村を編む」100年後芸術祭、市原市おもてなし交流事業@千葉市原（2024）、「未来の大芸術家たち」@平成記念アートギャラリー（2024）、第71回東京藝術大学卒業修了作品展ooiiII@中央棟第6講義室（2023）
受賞歴：平成芸術賞 （2023）、上野芸友賞（2021）